

理科・環境教育助成 成果報告書

第3回 期間：2005年11月～2006年10月

氏名： 谷 友雄 所属： 福岡市立若久小学校

課題名： 学校や地域の自然調査活動を通じた理科・環境教育の取り組み

1. 課題の主旨

地域の植物や生物、また、校内のビオトープに生息する水生生物等を調べることにより、身近な環境での生物の存在に気づく。

地域の川や池に生息する指標となる生物を調べ、採集したり、水質のレベルごとに水生生物を分けて継続観察をしたりことにより、自然観察に基づく調査収集能力、生物を図鑑で調べる能力等の自然調査能力を育成すると共に、自然と共存する環境のあり方について考えることが出来るようにする。

2. 活動状況

- ① 学校ビオトープを中心に地域を、100メートルの正方形で、区分けを行い観察範囲の決定をした。

- 学校敷地内の植物や昆虫等の採集と標本づくり

委員会活動や昼休みの時間をとり、定期的に観察活動を行い、継続的な記録を欠かさず取り組み、委員会の掲示板に写真や調査内容をまとめた資料を作成し掲示した。

四季を通して、植物の付ける花の様子の変化や昆虫の種類や住み家、飼い方など、また、ビオトープの池の水量の変化、水温なども詳しく観察出来るようになってきている。

- 校内の樹木の名前調べ

図鑑で調べたり、パソコンで調べたりして、葉の形や並び方などに着目しながら、樹木名の確認に意欲的に取り組むことができた。樹木にも大変関心を示して活動できた。



- ② 地域の池や川の水生生物調査

- 5年生の自然教室の際、郊外の野山において自然観察を行い、野山の植物や小川の水生生物を採集したり、空気中の汚れを見るために空気検知管を使った調査なども行い、都心部と郊外との違いなどをまとめた。



③ 水質別素生成物の継続観察のための『若久小水族館』づくり



3つの水槽を設置し、川の上流・中流・下流と、環境が異なる3カ所で採集した魚や貝、虫などの観察を、当番を決めて観察記録に残していった。

④ 報告書作成

個人ファイルに写真や資料等の記録を整理し、論文形式にまとめ報告しあつた。

3 結果

- 自然の生物を調査する活動を行うことにより、スケッチ力や観察力などの情報収集能力や資料活用能力を高めることができた。
- 生息場所の環境と水生生物等の種類など、自然調査活動を通して比較観察を行うことにより、環境と生態系について深く考えることが出来た。
- 自然環境についての関心が深まり、自然に対する見方や考え方が変わり、自然環境の大切さをより実感する事ができた。

4 今後の課題と発展

- (1) 理科の学習内容と自然調査能力育成の関係性を明らかにし、総合的な学習の時間などの関連を生かした学習内容の見直しを図っていく。
- (2) 『若久小水族館』をさらに拡大していき、水生生物の観察を通して、自然の生物について子ども自ら学ぶ学習環境作りを充実させていく。
- (3) 自然調査活動の取り組みが分かるようなコーナーを工夫し、情報発信のための広報活動を行うようにする。

5 発表論文、投稿記事及び当財団へのご意見など

- (1) 自然調査活動を行うことで、いろいろな実験器具の必要性を感じ、子ども達一人一人に対し、用具の準備などを十分に行うことが出来たことに感謝しています。本当にありがとうございました。